

令和5年度 事務事業マネジメントシート		事務事業No.	10-	5
事業名	認知症総合支援事業（介護特会）		会計	款
	特会	3	3	
政策	3 みんなが活躍できる地域共生社会をつくるために		課名	健康長寿課
施策	3-3 高齢者福祉の推進		係名	

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	65歳以上の高齢者	目的 (対象がどのような状態になっているか)	認知症の人とその家族を支えるため、地域の医療機関をはじめ、地域の関係機関と連携した体制を構築することにより、住民誰もが認知症になってしまっても、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援・・・地域包括支援センターに設置した「認知症初期集中支援チーム」により、認知症（疑いを含む）の人や家族への早期対応・早期支援を実施する。 ・認知症カフェ・・・認知症の人の家族に対する支援の推進としてカフェを開催する。 			

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	目標方向	令和7年度（目標）
	1 認知症サポーター養成講座受講者数	5,438	6,071	6,330	人	↑	6,200
	2 見守り協定企業数	5	5	5	事業所	↑	10
	3 地域見守りネットワーク協力事業所数	135	135	135	事業所	↑	140
	4						
	5						
			令和4年度（決算）		令和5年度（決算）		令和6年度（予算）
全体事業費（千円）A+B			5,380		4,611		5,046
財源 内訳	直接事業費A		1,414		1,965		2,460
	うち一般財源		1,414		452		565
人件費（千円）B			3,966		2,646		2,586
内訳	一般職員（人・千円）		0.41		1386		1,650
	臨時職員（人・千円）		0.7		1260		936

3 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性は高まると考えられる	有効性	目標達成度	A達成できた
		町閑与の必要性	B町が担うとともに、町民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A対象者は適切である
		コストの削減	A削減の余地はない			
総合評価	I 拡充（事業内容を現在の規模を超えて拡充すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①R5年度の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 認知症への普及啓発 「チームオレンジとういん」の活動支援 	③取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> 認知症への理解不足がまだまだ十分ではない。 「チームオレンジとういん」の育成と活動支援
②R5年度に実施した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「チームオレンジとういん」を設立、勉強会を開催するなど育成に取り組んだ。 「チームオレンジとういん」の活動支援をし、世界アルツハイマーーには啓発グッズを作成、図書館に展示するなど普及啓発を実施した。 	④今後の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 認知症への普及啓発 「チームオレンジとういん」の増員と活動の拡大支援